

1) 訪問実施結果

(1) 訪問状況

(単位：人)

年度	総 数		訪問調査	訪問診療 依頼数	訪問口腔 衛生指導	通院介助 ・ 補助	訪問調査の依頼元		
	実数	延数					居宅介護 支援事業所	地域包括 支援センター	その他
R元	41	122	20	6	102	0	10	9	1
R 2	33	106	16	7	84	6	7	9	0
R 3	35	63	21	2	41	1	5	16	0
R 4	30	88	20	2	67	0	7	10	3
R 5	46	114	30	2	84	0	18	8	4

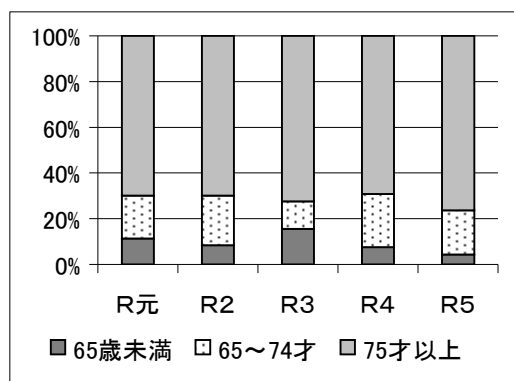
訪問調査の依頼元は、居宅介護支援事業所と地域包括支援センターが主で「お口と栄養のアセスメントシート」を活用して依頼が来ている。その他4件は高齢者と介護予防の一体的実施担当の看護師より1件、高齢者口腔ケア教室より1件、本人の相談から訪問につながったケースが2件あった。

今年度からは早期にフレイル予防をしていくために、高齢者口腔ケア教室や歯周疾患検診後等のフォロー体制を整え、来所相談(29件)、電話相談(14件)を実施した。相談内容は「口が渇く」や「歯間ブラシのサイズは合っているか」といった些細なことまで様々であった。口渇については水分不足や欠食などの食生活状況や日中の過ごし方、全身疾患や服薬状況等の要因が複雑に絡み合っており、早期に関わり支援する必要性を感じている。相談をきっかけとして訪問へつなげ、具体的な支援を行い、状況によっては他職種と連携して早期疾病予防・介護予防へとつなげていきたい。

(2) 年齢内訳

(単位：人)

年度	総数		65歳未満		65～74才		75才以上	
	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数
R元	41	122	7	14	7	23	27	85
R 2	33	106	4	9	6	23	23	74
R 3	35	63	3	9	4	7	28	47
R 4	30	88	3	6	7	18	20	64
R 5	46	114	3	5	10	22	33	87



(3) 要介護度内訳

(単位：人)

年度	非該当		要支援 1		要支援 2		要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5	
	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数
R 3	2	4	9	9	9	19	5	14	4	5	4	7	2	5	0	0
R 4	4	8	5	14	10	28	5	20	3	7	2	7	1	4	0	0
R 5	5	8	9	32	11	26	7	11	5	13	6	12	3	12	0	0

口腔栄養アセスメントシート記載のときに第三者的に課題があると感じたときは歯科衛生士の訪問を勧めていただくようにケアマネジャーにお願いしているが、課題があっても本人が「困っていない」と発言すると言葉そのままを受け止めて、我々につながらないこともある。

また何とか訪問できて、口腔内の影響で柔らかいものしか食べられないなどといった課題があっても、要介護度が軽度な方ほど本人の困り感がなく動機付けが難しい。

ケアマネジャーなどの関係機関に対し、訪問での歯科衛生士の支援が早期にフレイル予防、低栄養予防となることを理解してもらえるよう、今後も連携を深めながら実施していきたい。

障害者歯科健診・歯科相談実施結果

(1) 参加状況

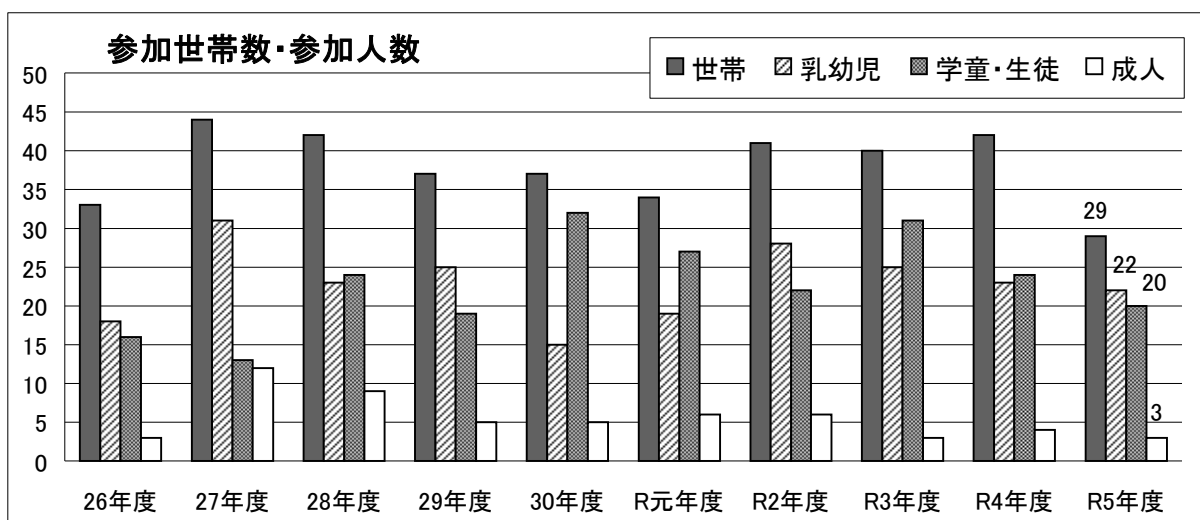
(単位：人)

	実施日	参加数	乳幼児	学童・生徒	成人	フッ素塗布数	サホライド塗布数	
							(人)	(本数)
1回目	6月24日	25	12	12	1	21	1	1
2回目	11月25日	20	10	8	2	14	0	0

(2) 年度別参加状況、担当歯科医

(単位：人)

年度	総数	世帯	乳幼児	学童・生徒	成人	担当歯科医	
						6月	12月
R元	52	34	19	27	6	中村、河村	中村、薄井
R2	56	41	28	22	6	中村、原岡	中村、薄井
R3	59	40	25	31	3	中村、原岡	中村、南
R4	51	42	23	24	4	原岡、越中	中村、薄井
R5	45	29	22	20	3	中村、薄井	原岡、寸村



・今年度は29世帯45人の参加であった。

11月日程が降雪し始めて吹雪となったこと、インフルエンザ等の感染症が拡大していたこと、受付時間が周知後に変更になったこと等、複合的な要因で参加数が減少したと考えられる。

・参加者は比較的に口腔内状況が良好で、むし歯もない児がほとんどであった。

臭いや過敏、こだわりがある児が多いが、工夫して歯磨き等を行っている。

保護者の心配はむし歯の有無と歯ならび、かみ合わせのことで、将来の矯正について相談したいという内容が最も多い。

日常的にできる吸う・吹くといった口を使った遊びや姿勢、前歯で噛みちぎる等の食習慣等、少しでも改善できるポイントについて提案していく。